

呼吸器内科

1. 診療科としての特色

- まず全身を幅広く診ることができる呼吸器内科医の養成を目指しています。
- 多彩かつ専門性の高い呼吸器疾患のエキスパートになることができます。
- 特に間質性肺炎は全国より患者紹介があり、臨床研究や基礎研究を行っています。

2. 研修目標

呼吸器系は他の臓器と異なる特徴を有しているため、多彩な疾患を診療する必要があります。

そのため、以下に掲げた項目に対する知識と理解、重要な検査についてはその技術の習得が求められています。

- 総論
 - 呼吸器の形態・機能・病態生理
 - 疫学
 - 主要症候と身体所見
 - 検査
 - 治療
- 各論
 - 呼吸器感染症
 - 閉塞性肺疾患
 - びまん性肺疾患
 - アレルギー性肺疾患
 - 全身性疾患に伴う肺病変
 - 呼吸不全（急性・慢性）
 - 肺循環障害
 - 睡眠時無呼吸症候群
 - 腫瘍性肺疾患

実際に診療する患者に対して、呼吸器の形態や機能、病態生理の知識を総動員して、必要な検査をオーダーすることができること、また次に検査の結果を正しく解釈し、診断すること、そして診断した疾患をエビデンスに基づき治療することが要求されます。

総論および各論の知識は、臨床経験により有機的に結びつくものであり、当科および各関連施設で診療を行うことで身につけ、最終的に呼吸器専門医が取得できます。